

2003年度建築研究所懸賞論文

## 「幸せを育む住まいと建てもの」表彰式

## 目次

建築研究所懸賞論文について  
募集要項  
表彰式

## 建築研究所懸賞論文について

21世紀の社会は、様々な局面で大きな転換を余儀なくされ、国民のライフスタイルも大幅に変化するであろう。そして、この変化に応じて住宅・建築・都市に対する国民の要求もますます多様化すると考えられる。

将来において、ユーザーから求められる住宅・建築の供給を可能にし、より良い住宅や望ましい都市を実現するためには、現段階から将来の住宅・建築・都市像を想定し、それに向けた研究開発を実施することが必須である。

建築研究所では、将来の住宅像を更に具体的なものとするとともに、対象を建築と都市にも拡大し、望ましい住宅・建築・都市を実現するための研究課題や技術開発要件を整理するための事業の一環として、広くユーザーの声を聞くための懸賞論文募集を行ってきた。2001年度は「21世紀理想の住宅」、2002年度は「こんなまちに住みたい」をテーマとした。各々に、夢のある、そして様々な示唆に富む多数の国民の声が寄せられた。

これまでの実績を踏まえ、本年度は「幸せを育む住まいと建てもの」をテーマとして募集を行うこととした。

## 募集概要

以下、募集要項より抜粋を示す。

## テーマ

「幸せを育む住まいと建てもの」

生活の三大要素「衣食住」のなかで、「住」の重要性はますます増えています。人々の生活を包み込む場として、人を育む場として。

「住まいと建てもの」への感じ方や考え方は何通りもあります。幸せのものさしが多様化し、快適な暮らしを生む

技術が拡がりつつあるなかで。

住まいと建てものに幸せを詰め込み、明るい未来への扉を開く第一歩を記してください。対象は住宅に限りません。仕事や勉強、余暇を含めた生活全般の中でお考えください。

応募論文は、真に良い住宅・建築を実現する研究目標設定の参考とさせていただきます。

## 主催・後援等

主催：独立行政法人建築研究所

後援：国土交通省、(社)住宅生産団体連合会、都市基盤整備公団、住宅金融公庫、(社)建築・設備維持保全推進協会

## 審査委員

委員長 村上周三(慶應義塾大学教授)

委員 浅見泰司(東京大学教授)

大久保恭子(日立キャピタル株式会社業務役員  
マーケティング部長)

隈 研吾(建築家)

妹島和世(建築家)

葉 青(作家)

川本俊明(国土交通省住宅局住宅生産課課長)

高橋邦男(社団法人住宅生産団体連合会副会長)

山内泰之(独立行政法人建築研究所理事長)

## 応募規定

論文：日本語で2,000字以内。未発表で自作の論文に限ります。明確な副題をつけて、自由に表現してください。

(補足説明のためにA4判1枚以内でイラスト/図版/写真の添付も可)

資格：18歳以上の日本在住の方。

締切：2004年1月12日(月) 当日消印有効。

**審査結果**

発表 建築研究所ホームページ

<http://www.kenken.go.jp/>、ほか

表彰 2004年3月3日(水) 建築研究所講演会

(有楽町マリオン11階朝日ホールにて)

**表彰**

国土交通大臣賞 1名(副賞10万円)

建築研究所理事長賞 1名(副賞10万円)

住宅生産団体連合会会長賞 1名(副賞10万円)

優秀賞 数名(副賞5万円)

**表彰式**

式次第(予定)

1. 開式
2. 最優秀賞授与  
国土交通大臣賞  
住宅生産団体連合会会長賞  
建築研究所理事長賞
3. 優秀賞授与
4. 講評 審査委員長 村上周三(慶應義塾大学工学部教授)
5. 閉式

